

教材活用例(1)「ゆめにむかって―栗原恵選手のゆめ―」

〔小学校中学年 主題：ゆめにむかって 内容項目：1の(2)〕



(1) 開発資料の実際

ア 素材の説明

(ア) 素材の概要

〈素材―栗原恵さん―について〉



栗原恵さんは、江田島市能美町出身のバレーボール選手である。全日本(火の鳥NIPPON)チームの副キャプテンを務めるなど活躍している。

小学校4年生からバレーボールを始め、高校時代にはインターハイ・国体・春のバレーに優勝し、三冠を達成した。さらに夢であったアテネ、北京のオリンピックにエースアタッカーとして連続出場し、それぞれ5位入賞を果たすなど多くの実績を残している。

昭和59年 (1984年)	佐伯郡能美町(当時)に誕生
平成10年 (1998年)	兵庫県大津中学校に転校
平成12年	山口県三田尻女子高校に進学 インターハイ・国体・春高バレー優勝の高校三冠
平成14年	高校3年、全日本代表メンバーに選出
平成16年	アテネオリンピック5位入賞
平成18年	左足種子骨骨折の診断、約半年間リハビリ生活
平成19年	全日本復帰、ベストスコアラー部門9位
平成20年	北京オリンピック5位入賞
平成21年	全日本(火の鳥NIPPON)の副主将
平成22年	世界バレー銅メダル

栗原恵さんの経歴

(イ) 4コマ絵

夢に向かって進んでいくために、大きな決断をしなければならない主人公恵さんの葛藤場面を中心に構想した。その中で、補助的な人物としてお父さん、お母さんを設定した。幼い頃から恵さんに厳しくバレーを教え、その基礎をつくったお父さん。悩んでいる恵さんの話を聞き、後悔しない進路を決めるように話すお母さん。

	1	2	3	4
場面のイメージ絵				
絵の説明	小さい頃からお父さんとバレーボールの練習をする。バレーボールが大好きな恵さん。	小学校でスポーツ少年団に入り、バレーボールを楽しみながら、練習に励む恵さん。	バレーボールの強い学校から転校の誘いがあり、進路について迷う恵さん。	悩んだ末、転校を決意し、夢を果たしてオリンピック選手になった恵さん。

イ 資料の解説

【作成の要点】

小学校学習指導要領解説道徳編では、夢や希望について、「児童が自立し、よりよく生きていくためには、(中略)何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。しかし、それは見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結び付いてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえよう。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現への志をもち、勇気をもって取り組むことができるようにすることが重要になる。」とある。

また、中学年の段階においては、「自分がやらなければならないことだけではなく、更に自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。そのためにはあきらめずに取り組むことの意義や、今よりよくなりたいと願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。」とある。「心のノート」の関連ページには、キーワードとして『今よりよくなりたい』という心をもとう」と示されている。

これらを踏まえ、「栗原恵選手」を素材として資料を作成するに当たっては、夢や希望を焦点化し構想することが大切であると考えた。児童に、自分が好きなこと、夢にむかって前向きに生きていくことのすばらしさを感じ、そのために努力していこうとする気持ちを育てていきたい。そこで、転校を決めるときの恵さんの思い悩む姿を中心場面として設定した。



【心に響くちょっといいはなし】

恵さんは、とてもがんばりやさんであった。ペン習字、ピアノ、習字とバレーボール以外の習い事もしていたが、やりだしたらやめない子であった。泣くのもよく泣いていたが、できない悔し涙、思い通りにならない涙で、やめる涙ではなかったとお母さんは語る。

中学校2年生の転校は本人に選ばせた。でも、心配なご両親は、会いに行く度、恵さんが『帰りたい。』と言ったら連れて帰ろうね。」と話していたそうである。がんばっているのがわかっていたから、「がんばれ。」とは言わず、「もういいよ。休んでいいよ。」と声をかけていたそうである。やめないのは分かっていたから出来たのかもしれないと話されていた。

ウ 資料全文

「ゆめにむかって」 —栗原恵選手のゆめ—

「ヤッホー。私の今のゆめはバレー選手なんだけど……。バレーをつづけていますか？

12才の恵より」

今、活やくしている恵さんは、しょう来の自分にこんなメッセージを書きました。テレビで全日本選手のすばらしいプレーを見て、自分もバレー選手になって、見ている人の心にのこるプレーをしたいと思ってえがいたゆめ。恵さんは、このゆめをかなえたのです。

恵さんは江田島市能美町えたじましのうみちょうの出身です。お母さんは、小学校のママさんバレーの選手、お父さんはそのチームのかんとくでした。「恵は、赤ちゃんのころからボールで遊んでましたよ。」と、お父さんが言うように、バレーに親しんで育ちました。小学校に上がる前から、にわでパスの練習をするくらい、バレーが大すきな女の子でした。お父さんと練習をしている時、うまくできないと、

「ボールをよく見て。」

「うんわかった。」

「手をのばして。」

「できないよ。」

「ああ、もう、そうじゃない。」

「できない。もうやらない。」

と言ってケンカになり、恵さんはできないことがくやしくて、練習をやめてしまいました。でも、次の日になると、

「お父さん、いっしょに練習しよう。」

と、にっこりわらってお父さんをさそうのでした。

恵さんが本かくてきにバレーを始めたのは、小学校4年生の時。スポーツ少年だんに入ってからでした。せの高さを生かして、スパイクをうちました。それが楽しかったので、家でも毎日練習していました。

恵さんは、学校のそつ業文集にバレーのことを書いています。

私の1番の思い出は、バレーのことです。

大会2日目の相手は、力が私たちよりもすごいです。やってみても強い。でも、みんなでカバーし合ってボールをつなぎ、やっと勝てました。みんなの力です。

そして次の相手は、何でもかんぺきなチーム。なかなかサーブがとれません。声をかけ合っ
て、ねばり強くとりにいきましたが、負けてしまいました。し合の終わりのふえが鳴るとガックリ……。ガックリといっしょに、くやしなみだが出てきました。

B級の3いだったけど、自分たちにまん足です。それは、とっても楽しいし合ができたからです。今まで練習をがんばったから、3セットまでねばることができました。このし合のことは、ぜったいわすれません。みんなやればできるということがよく分かったので、このし合をはげみにして、これからもずーっとバレーをつづけていきたいと思います。

恵さんは、中学校でもまよわず、友だちと楽しくできるバレーをつづけました。

そんなある日、ほかの県の強くて有名な学校から、転校してバレーをやらないかというさそいがありました。

(バレーのことだけを考えれば、練習がきびしくてもやってみたい。やればもっと上手になれる。)

(転校すれば、大すきなお父さん、お母さん、お兄ちゃんとわかれて、たった一人の生活になってしまう。)

(小学校からずっといっしょにバレーをしてきた、なかよしの友だちとも会えなくなる。)

どうしてよいかわからず、恵さんはなみだがとまりませんでした。なきじやくるすがたを見て、お父さんは、「バレーをやりたいのは、わかるよ。でも、そんなになくてまでバレーをするのか。できるのか。」と言いました。思わず、

「ううん、行く。ぜったいに行く！」

とこたえた恵さん。その時に、

(そうだ。私は、ぜったいにバレーがやりたいんだ。)

という気持ちがわかったのです。

その日の夕方、お母さんと恵さんはいつものように食事のじゅんぴをしていました。その時、恵さんはうつむいて、大つぶのなみだをこぼしながら、

「転校してから、しなければよかったと思うかもしれない・・・。」

と、ぼつりとつぶやきました。お母さんは、

「めぐ、あなたはどうしたいの？ 自分がどうしたいか、よく考えてごらんさい。」

と、やさしく言葉をかけてくれました。

その夜、恵さんは、部屋で一人じっと考えました。

そして、次の日の朝、ふすまを静かに開け、

「私、やっぱり行く。」

と、お父さんお母さんに言いました。恵さんは、転校することを決めたのです。

こうして、恵さんはゆめにむかって第一歩をふみ出しました。

恵さんのその後の主な活やく

1998年：ひょうご県の中学校に転校する。

2000年：山口県の高校に進学する。

2002年：高校三年生の時、全日本代表にえられる。

2004年：アテネオリンピックに出場し、五位入賞をはたす。

2008年：北京（ペキン）オリンピックに出場し、五位入賞をはたす。

2009年：全日本(火の鳥NIPPON)の副主将になる。

恵さんの今のゆめ。それは、いつかバレーをやめるとき、「バレーをやっていて本当によかった。」とえ顔でむねをはって言えること。そして、自分が小さいころにバレー選手になりたいというゆめをもったように、今の自分を見てバレー選手をめざす子どもたちに、ゆめをあたえてあげられるようにすること。

恵さんのゆめは、まだまだつづいています。

【参考文献】

栗原恵(2008) 「めぐみ」 実業之日本社

日本ドリームプロジェクト(編)(2009) 「アスリートの夢 26人のアスリート×きむ」 いろは出版

エ 授業展開例 ー学習指導案（略案）ー

恵さんの迷い、人間的な弱さを中心にした展開
～ 書く活動を生かした指導 ～

(ア) 主題名 ゆめにむかって 1－(2)

(イ) ねらい 転校を決めるときの恵さんの気持ちを考えることを通して、自分の好きなこと、ゆめにむかって前向きに生きていくことのすばらしさを感じ、そのために努力していこうとする気持ちを育てる。

(ウ) 資料名 「ゆめにむかって ー栗原恵選手のゆめー」

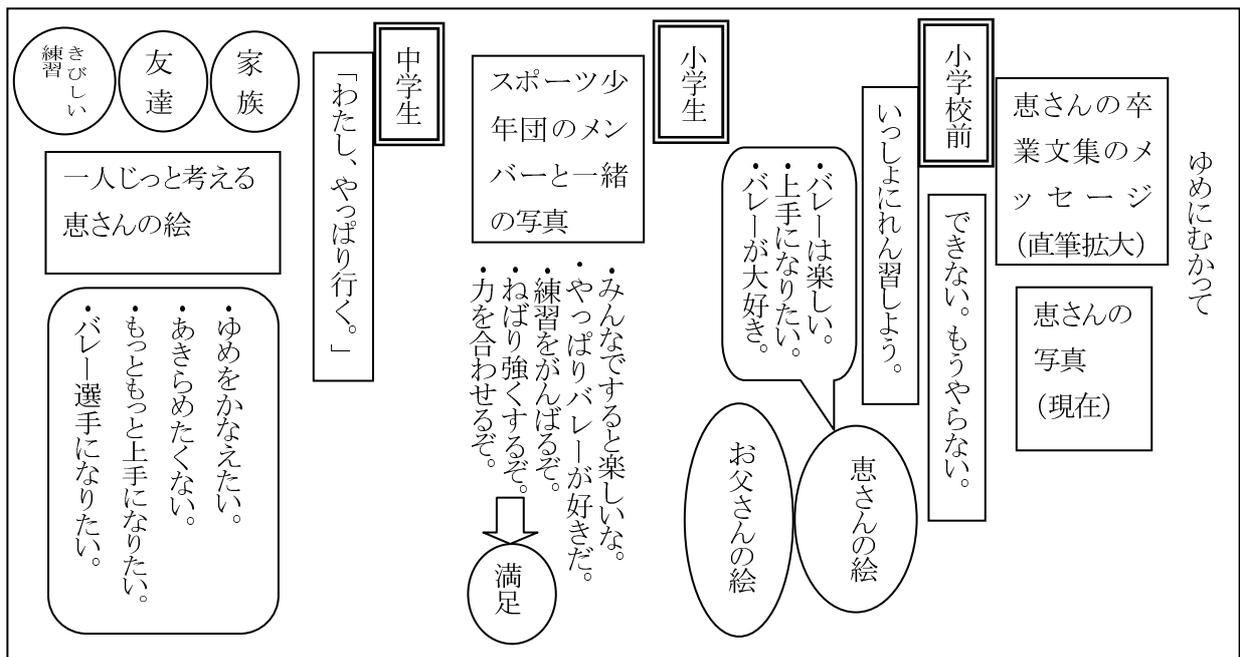
(エ) 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点 (☆評価の観点)
導 入	1 教室の天井の高さと栗原選手の最高到達点を比べる。	○ 教室の天井の高さはどれくらいでしょう。(栗原選手の最高到達点を知らせる。) ・高いなあ。 ・すごい。 ・あんなに跳べるんだ。	○ 栗原選手の最高到達点 305 cm (身長 186 cm) であることを告げ、栗原選手への関心を高める。 ○ 栗原選手の活躍の様子も簡単に知らせる。
展 開	2 「ゆめにむかって ー栗原恵選手のゆめー」を聞いて、話し合う。 3 自分の夢(目標)と努力を振り返る。	○ 「できない。もうやらない。」と言って練習をやめるのに、次の日には、また始める恵さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・今やめたら、ずっとできない。 ・できないのはくやしい。 ・できるようになりたい。 ・やっぱり、バレーが大好き。 ○ スポーツ少年団で、恵さんはどんな気持ちでバレーをしていたのでしょうか。 ・みんなでするバレーは楽しい。 ・練習をがんばって、ねばり強くボールを取りに行くぞ。 ・みんなで力を合わせて、試合をがんばった。 ・負けたらくやしいけれど、がんばったから自分たちの試合に満足だ。 ・これからもずっとバレーを続けていきたいな。 ◎ 恵さんは、どんなことを考えて「わたし、やっぱり行く。」と言ったのでしょうか。 ・家族と離れるのは寂しい。でも、私は、バレーが好きだ。がんばりたい。 ・不安だけど、もっと上手になって、バレー選手になるぞ。 ・できるところまで、がんばってみたい。 ○ あなたの今の夢(目標)は何ですか。どんなことをがんばっていますか。 ・サッカー選手になりたい。だから、練習は休まずに行っている。	○ 話が分かりやすいように、資料は3つに区切って提示する。 ○ 中心発問につなげるために、「できるようになりたい、バレーが好き。」という気持ちを押さえる。 ○ みんなでバレーをする楽しさが今の恵さんにつながっていること、結果よりも、一生懸命練習をしたこと、自分たちががんばったと思えること、力を出し切ることが満足感につながることを感じさせる。 ○ 迷う恵さんの気持ちを確認し、転校を決めた根底には、「バレーが好き、上手になりたい。」という変わらない思いがあることをとらえさせる。 ☆ 書く活動を通して、迷いながらも自分の夢を果たすために前向きに生きる恵さんの思いについて、自ら考えを深めることができたか。
終 末	4 恵さんが今の夢を語っている資料映像を見る。	・夢を持ち続けているんだな。すごいな。 ・「人にアドバイスできる大きな人」というのも夢なんだな。	○ 恵さんの今の夢を聞き、夢をもつことのすばらしさとそのための努力の大切さを感じさせる。

資料場面	登場人物の行為・心情		主人公の心情	児童の意識の流れ
	中心人物（恵さん）	その他の人物 （お母さん・お父さん）		
<p>○小さい頃から父さんと一緒にバレーをやるのが大好きな恵さん</p> <p>○小学校でスポーツ少年団に入り、毎日バレーを楽しく練習し、恵さんからも練習に励まされてきた</p> <p>○中学生になり、強いの学校から転校の誘いがあり、恵さん</p> <p>○転校を決断し、夢を果した選手になった恵さん</p> <p>○今も夢を持って練習している恵さん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーの練習中うまくできなくて、いじわるな言葉を言われて、練習をやめてしまおうか、と悩んでいました。笑顔を練習しました。 ・小学校4年生からバレーを始め、毎日練習していた。そしてバレーを続けてきた。 ・中学校でも楽しくバレーを続けた。 ・転校の誘いがあり、悩んだ。 ・やればもっと上手になれる。みんなと別れたら、みんなが羨ましく、仲良しの友達とも会えなくなると考え、迷った。 ・どうしてよいか分からず、なまじやわくわくしていたから、転校してやらなければならないかもしれない。と悩んで、母に伝えた。 ・部屋で一人じこと考えた。 ・「わたし、やっぱ行くよ」と決心を両親に伝えた。 ・バレーをやっていたよが、「さあ」と言えること、恵さんにも伝えることに決めた。恵さんにも伝えるよ、と新しい夢をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵さんと毎日のようにバレーの練習をした。（お父さん） ・「恵さん、バレーをやるの、か？」と、恵さんに声をかけた。（お父さん） ・「自分もどうしたいかよく考えて、自分の心に向かい合おうよ。」と声をかけた。（お母さん） ・「恵さん、バレーをやるの、か？」と、恵さんに声をかけた。（お父さん） 	<p>お父さんと練習</p> <p>スポーツ少年団に入る</p> <p>転校について悩む</p> <p>転校を決心</p> <p>今の夢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○恵さんは、小さいころからバレーが大好きだった。 ○上手になりたいから、練習がんばった。 ○私と同じころからバレーを始め、毎日練習してきた。 ○スポーツ少年団で練習したんだ。 ○練習がんばって、満足している。 ○私も楽しんでバレーをやっている。 ○家族、友達、練習のことを考えて、恵さんはすごく悩んだんだ。 ○家族と離れるなんて、すごく寂しいな。 ○友達とも会えなくなると、悲しいな。 ○すごく悩んで決めたんだ。 ○もっと上手になりたいという、強い気持ちがあったんだ。 ○夢をかなえるために、決めたんだ。 ○夢はまだ続いているのか、オリンピック選手になって、終わりにしないんだ。

(才) 資料分析表

(カ) 板書例



【板書の構成】

板書は、短冊や色チョークなどを活用し視覚に訴えるなど、児童の思考の助けとなるよう心がける。

本資料は、恵さんの小さいころ（小学校前）、小学生、中学生と長い時間の出来事を表しているので、どのときのことか分かりやすいように、短冊で示す工夫をする。

恵さんの言葉「できない。もうやらない。」は青字で下、「いっしょに練習しよう。」を赤字で上に示し、恵さんの気持ちをよりはっきりとした板書にする。

また、小学生のころの「練習をがんばるぞ。」「ねばり強くするぞ。」が満足につながることを赤字で示し、結果よりも、一生懸命練習をしたこと、自分たちががんばったと思えること、力を出し切ることが満足感につながることを感じさせる。

中心発問の「わたし、やっぱり行く。」と言う言葉は、短冊の色を変え、しっかり考える場面であることを意識させる。

ゆめにむかって

名前)

(

☆めぐみさんは、どんなことを考えて「わたし、やっぱり行く。」と言ったのでしょ。

A large rounded rectangular box with seven vertical lines inside, intended for writing.



(2) 活用のポイント

発問は、恵さんの言葉や行動の裏側にある気持ちを問うことで、今よりよくなりたいと願い、努力しようとする姿について考えを深めていき、ねらいに迫っていきたい。

中心発問では、書く活動を取り入れる。恵さんも悩み、それを乗り越えて夢を実現させたことから、その人間的弱さや葛藤についてしっかり考えさせ、児童の多様な思いを引き出したい。

終末では、バレーボール選手になって夢が終わりということではなく、夢をもち続け、努力し続けることのすばらしさを感じさせたい。そして、「自分もがんばるぞ。」という気持ちを高めるものとしたい。

現在活躍中の選手なので、写真や映像を活用し、そのすばらしさを感じさせると共に、そのもとになるのは小さい頃に思い描いた夢や希望とその実現に向けた努力であることを合わせて感じさせたい。

ア 発問の工夫

恵さんが転校を決めた根底には「バレーが好き、上手になりたい。」という、小さい頃からの変わらぬ思いがあることを捉えさせたい。そこで、初めの発問で、小学校にあがる前からバレーボールの練習を楽しんでやっている恵さんの気持ちを考えさせ、小学校では、みんなでバレーボールをする楽しさを感じていること、結果よりも一生懸命練習したこと、自分たちががんばったと思えること、力を出し切ることが満足感につながっていることを感じさせ、中心発問につなげたい。中心発問は、恵さんが葛藤しながら転校を決める場面とする。

展開後段では、事前に子どもたちの夢や目標について、アンケートで実態を把握しておく。好きなことを自分もがんばっている、これからもがんばろうという気持ちを育てることでねらいに迫りたい。

イ 書く活動の工夫

好きなバレーボールを続けたい、もっと上手になりたい、そのために、決断し努力する恵さん。恵さんも悩み、それを乗り越えて夢を実現させたことから、その人間的弱さや葛藤を一人一人が自

分の言葉で書くことにより、しっかり考えさせる。そして、夢をもってがんばろうとしている恵さんの姿を通して、目標をもってチャレンジする気持ちを育てたい。

ウ 終末の工夫

終末では、今の夢を語る恵さんの映像を視聴したり、資料最後の「恵さんの今の夢」を、音楽をかけながら読むことも考えられる。

また、運動会、持久走大会等の行事と関連させた終末も考えられる。各行事の様子を映像で見せることにより、努力しやり抜くことができる自分であること（自己肯定感）に自信をもたせ、「もっとよくなりたい。」という気持ちを高めていくこともできる。

エ 実物・視聴覚機器などの活用

資料のはじめは、恵さんの小学校の卒業文集に書かれたメッセージ（「将来の自分へ」）なので、直筆のメッセージを児童に見せることで、より興味がわくのではないかと考える。また、ユニホーム姿、試合の様子などを見せることで、夢をかなえたすばらしさ、そのための努力の大切さを感じさせたりしたい。

(3) 授業の実際 — 児童・生徒の反応から —

ア 発問の工夫

導入では、恵さんのジャンプ最高到達点（305cm）を実感させるために天井の高さをたずねた。児童は「すごい。」という驚きを感じ、資料への興味付けができた。

恵さんのその後の主な活躍を導入段階で紹介することで、大変興味をもち、よかった。また、資料を読むことを省略することができ、展開の時間確保に役立った。

本資料は中学年の児童にとっては、少し長いことから資料はいくつかに区切って提示したが、児童にとっては資料に入り込みやすく分かりやすかったようである。小学校4年生の時バレーを始めたことが書いてあるところでは、子どもの表情が変わり、より恵さんが身近に感じられていた。

展開後段では、アンケートをとっているの、様々ながんばりを紹介するために、意図的指名を

した。児童は自分のがんばりを発表し、認められることで「これからも続ける。」と、意欲を高めることができていた。

イ 書く活動の工夫

中心発問では、すぐにワークシートに書くのではなく、転校したら何を後悔するかを確認した。児童からは家族と別れる不安が多く出てきたが、友達との別れ、行っても足を引っ張るかも、練習がきびしいからできないかも等、不安の中身も多様に出てきた。

【児童のワークシートから】

- ・友達や家族と別れるのはさびしいけど、自分はバレーが好きだから。バレーが今よりもっと強く、もっと上手になりたいから。
- ・自分自身の夢を考えて、好きなバレーを大人になっても続けたい。
- ・有名な中学校で練習をがんばって、強くなったところを見せたかったから。
- ・友達とは会えないけど、夢は今しかかなわないから転校することにした。
- ・バレーが好きだから、きびしい練習もがまんして、バレーを上手になりたい。強くなりたい。

ウ 終末の工夫

資料後半のめぐみさんの今の夢を読むことで、「あっ、夢は一生涯続くんじゃない！」という声が出た。夢をもち続けることのすばらしさを感じることができたと考えた。

そして、恵さん自身が今の夢について語っている映像を見せることで、バレーボール選手になった今も新たな夢をもち続け、努力し続ける恵さんのすばらしさに触れ、夢をもつことのすばらしさとそのために努力することの大切さを感じさせることができた。

エ 実物・視聴覚機器などの活用

資料のはじめは、恵さんの小学校の卒業文集に書かれたメッセージ（「将来の自分へ」）なので、直筆のメッセージを子どもたちに見せた。

直筆のメッセージや小学校時代の写真で、「ほんまに書いたん？」「背が高い！」などの言葉が自然に出てきており、児童の興味・関心を一層高

めるのに効果的であった。

終末の映像も、興味をもって視聴することができており、効果的であった。

(4) 各教科等（体験活動を含む）との関連

○ 学級活動

授業後、4年生で行う「1/2成人式」の取組で、自分の夢や目標を語り、そのためにどんなことをしているかということを発表する場を設定する。保護者への発表の場等を工夫することで、児童の努力しやり抜く気持ちを、さらに高めていく。

○ 各行事等

運動会、合奏発表、図画選奨会、持久走大会等、目標をもってやり遂げる行事と関連させ、努力しやり抜くことができる自分であること（自己肯定感）に自信をもたせ、「もっとよくなりたい。」という気持ちを高めていく。

(5) 心のノートへの活用

○ 学級活動で「心のノート」PP. 16-19 を活用する。

「目標をもってやりぬく」に自分の目標を書き、自分をふり返る機会とする。「1/2成人式」に向け、自分の夢や目標を再確認する。

P. 18の「続けるひけつ」を家族や先生、友達に聞かせ、意欲化を図る。

○ 帰りの会で「心のノート」P. 19 を活用する。

持久走大会を前に、自分の目標達成のためにやることを決めさせ、15日間、表に記入させる。この他に、生活や学習についてもその都度、目標を決めさせ、取り組ませる。がんばっている自分や、友達を認めながら取り組むことができる。



【参考】低学年資料

「わたしの いちばんの おうえんだん」

わたしの なまえは くりはら めぐみ。 えたじましで うまれて そだちました。いまは せんだいという ところに すんで、バレーボールせんしゅを しています。そして、せかいのチームと しあいを しています。

わたしは、 うまれたとき 3950グラムの おおきな あかちゃんでした。「めぐみ」という なまえは、おとうさんが つけてくれました。しあわせに めぐまれますように、ともだちに めぐまれますように いろんなことに めぐまれますように、という ねがいが こめられています。わたしは この なまえが だいすきです。

わたしは ちいさいころから、バレーボールで あそぶのが すきでした。おとうさんと バレーボールの れんしゅを している ときの ことです。

「ボールを よく みて。」

「うん、わかった。」

「てを のばして。」

「できないよ。」

「ああ、もう、そうじゃない。」

「できない。もうやらない。」

といて おとうさんと よく けんかになりました。わたしは おこって、れんしゅを やめました。

でも、つぎの ひには、

「おとうさん、いっしょに れんしゅしよう。」

と、いいました。おとうさんは、にこっと わらって、

「よし、やるか。」

といて すぐに れんしゅを してくれました。

わたしの だいこうぶつ、それは おかあさんが つくってくれる グラタンや クリームシチューです。おさしみも だいすき。こうばしい カキごはんや カキフライも。おかあさんの つくるものは なんでも おいしいと おもいます。

わたしが せんだいから かえると おかあさんは すきなものを テーブル いっぱい よういして くれます。たべきれない ぐらいです。わたしが ぱくぱく たべるのを、おかあさんは ずっと みています。

「やっぱり、おかあさんが つくったものは さいこう！」

といて、おかあさんは にっこり わらって、

「ありがとう。」

といます。わたしも

「ありがとう。」

といて、ふたりで めを あわせて、また わらいます。

しあいが あるとき、おとうさん おかあさんは いつも おうえんに きてくれます。わたしは ふたりの かおを みると、がんばる きもちが わいてきます。おとうさん、おかあさんは わたしの いちばんの おうえんだんです。

恵さんを思う家族の愛を中心にした展開
～ 役割演技を通してねらいに迫る ～

(ア) 主題名 大好きなかぞく 4－(3)

(イ) ねらい お母さんと二人で目を合わせて笑っているときの恵さんの気持ちを考えることを通して、家族を大切に思い、自分のことを考えてくれていることに感謝する気持ちを育てる。

(ウ) 資料名 「わたしのいちばんのおうえんだん」

(エ) 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 栗原恵さんについて知る。	○ 恵さんてすごいな。 ○ 世界のチームと戦って、すごいな。	○ 写真や、映像を見せることで、興味付けをする。
展 開	2 「わたしのいちばんのおうえんだん」を聞いて、話し合う。 3 自分の生活を振り返る。	○ お父さんは、どんなことにめぐまれる(いっぱいある)ように「めぐみ」となまえをつけたのでしょうか。 ・友達がいっぱいいる。 ・いいこと(幸せ)がいっぱいある。 ・お金がいっぱいある。 ・勉強がよくわかる。 ・病気をしないで元気に大きくなる。 ○ バレーボールの練習を「よし、やるか。」と言われたとき、恵さんはどんな気持ちでしょう。 ・やっぱりお父さんは、やさしいな。 ・お父さん、大好き。 ・お父さんとバレーをすると、楽しい。 ◎ お母さんと二人で目を合わせて笑っているとき、恵さんはどんな気持ちでしょう。 ・お母さんは、わたしのためにつくってくれたんだ。ありがとう。 ・お母さんの料理は、どれもおいしいな。 ・好きなものばかり作ってくれて、うれしい。 ・お母さん、大好き。 ○ 家族がいてよかったなと思うのは、どんなときですか。	○ お父さんは、どうしていろいろなことに恵まれた方がいいと思うのか、その思いで名付けてもらった恵さんの気持ちはどうかを問い、お父さんへの感謝、好きという気持ちを出させる。 ○ 教師が母親役、児童が恵さん役になり、役割演技をすることで、多様な思いを出させる。 ○ 料理を作って待つお母さんの気持ちも問うことで、恵さんのことを大切に思う気持ちも押さえる。 ☆ 役割演技を通して、主人公の家族に対する感謝の思いを自分に引きつけて表現することができたか。
終 末	4 自分の名まえにこめられた親の思いを知る。(手紙を読む。)	・こんな思いで、名前をつけてくれたんだ。 ・ぼくのことをすごく考えてくれているんだな。	○ 家の人に、子どもの名まえの意味について、手紙を書いてもらう。